

| 単位数 | 教科担当者 | 使用教科書・補助教材・その他 |
|-----------------------------|--------------------------|--|
| 2 | 三浦 伊都子 高橋 幸一 勝田 不学 | 論理国語（筑摩書房） 入試漢字2800（桐原書店） 新現代文単語（いっずな書店） 常用国語便覧（浜島書店） ちくま評論選（筑摩書房） 近現代文学名作選（明治書院） |
| 必修 ○学校必修 必修選択 自由選択 | | |

◆学習の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

◆主な学習内容・方法

- (1) 語句の確認 構成分析 主題・大意の要約 設問の解法
- (2) 対立概念の把握 文章表現技法の特色の抽出
- (3) 文学作品の背景の主体的な研究

◆到達目標と観点別評価の評価規準

〔標準〕 ・漢字の正しい読み書き及び、語句の意味が正確に把握できる。

- ・文章を、文脈から判断して正しく理解することができる。
- ・文章の構成をとらえ、文章の主題・大意を正確に把握することができる。
- ・登場人物の心情を正しく読み取ることができる。

〔応用〕 ・色々なジャンルの作品の背後にある事象や歴史、各分野との関連を理解できる。

○知識・技能

生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。

○思考・判断・表現

「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

○主体的に学習に取り組む態度

言葉がもつ価値への認識を深めるために、読書を通じて自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

◆年間予定授業時間

| 予定時数 | 70時間 | 1学期（26時間） | 2学期（28時間） | 3学期（16時間） |
|------|------|-----------|-----------|-----------|
|------|------|-----------|-----------|-----------|

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- ・本文を事前に通読し、分からない語句・筆者について調べておく。
- ・文章の構成に留意しながら、文章の展開と主張を的確に整理する。
- ・授業で課される課題に主体的に取り組む。
- ・副読本を自学自習で読み進め、発問の解答練習を繰り返す。

◆授業計画

| 学期 | 月 | 単元・教材等 | 単元ごとの時間数 | 学習の内容 | 学習到達目標 |
|------|----|--------------------------|----------|--|---|
| 1 学期 | 4 | 「地図の想像力」 | 4 | ・「科学的」であることが「進んでいる」という考え方に対する筆者の主張を読みとる。 | ・筆者のものの見方、考え方感じ方を読み取る。 |
| | 5 | 「アイオワの玉葱」 ほか 「山月記」 | 4 8 | ・言語が単なる道具ではなく、思考や感情を作り出す仕組みであるという主張を読みとる。 | ・論理展開や趣旨を的確にとらえることができる。 |
| | 6 | 「物語るという欲望」 | 4 | ・場面を区切って読み、「変身」をめぐる主人公の考えや心情の変化を整理する。 | ・文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確に捉え、表現を味わうことができる。 |
| | 7 | 「近代の成立」 ほか | 6 | ・筆者の主張を読みとり、日常における「物語る」ことの役割について自らの経験と照らし合わせて考える。 ・身近なテーマを通して、「近代」の特性を簡潔に整理し読みとる。 | ・筆者の考え方を論理にしたがって読み取り、思索を深めることができる。 ・比喩表現を理解し、作者の意図を読み取ることができる。 |
| 2 学期 | 8 | 「ファンタジー・ワールドの誕生」 | 4 | ・グローバル時代において、差別を強化し再生産する仕組みを文化人類学の視点から捉える。 | ・筆者の考え方を論理にしたがって読み取ることができる。 |
| | 9 | 「こころ」 | 1 2 | ・語りの構造、人物設定、筋立て、伏線等から作品の構成を捉え、小説を読む面白さを味わう。 | ・時代背景や人物の心情、情景、などを的確に捉え、表現を味わうことができる。 |
| | 10 | 「私の個人主義」 | 4 | ・夏目漱石の代表的な評論に触れ、「こころ」に描かれていた近代人について整理する。 | |
| | 11 | 「ビッグデータ時代の『生』の技法」 | 4 | ・情報技術が人間の「生」を変えていくという筆者の体験と知識に基づく主張を理解する。 | ・筆者の具体的体験の部分から主張へのつながりを整理して読みとることができる。 |
| | 12 | 「人新世における人間」 | 4 | ・新しいことばの発明によって世界の見え方が変わるという筆者の主張を読みとる。 | ・筆者の主張から、新たな認識を開く思考のあり方を学ぶことができる。 |
| | | | | | |
| 3 学期 | 1 | 「永訣の朝」ほか | 4 | ・詩を場面で区切り、表現の特徴を捉えながら情景・心理描写を読み解く。 | ・筆者の世界観・宇宙観を理解し、韻文の持つリズムや音感をとらえて表現のつながりを感じ取ることができる。 |
| | 2 | 「『である』ことと『する』こと」 | 6 | ・近代社会や近代の人間について様々な比喩を用いた論理の展開や趣旨を的確に捉える。 | ・筆者の考え方を論理にしたがって読み取り、理解し、現代の例に当てはめて考察できる。 |
| | 3 | | 6 | ・筆者の主張を現代社会の問題に当てはめて考察する。 | ・巧みな比喩表現を読み解き内容を理解することができる。 |